

シネマブレイク 2012年6月号

CINEMA BREAK

今月の要チェック話題作!!

静 岡県湖西市でサーフショップ&ハワイアン雑貨店を営む太田辰郎さん。その魅力的な人柄と、ろう者である太田さんと聴者のお客さんの「言葉を超えたコミュニケーション」を捉えたドキュメンタリー映画『珈琲とエンピツ』。自身もろう者であり、撮影を通して変化したという今村彩子監督にお話を伺いました。

豊橋の手話サークルの知人の紹介で太田さんのお店に行き、最初はハワイの人と誤解するほど日本人離れした風貌に惹かれて(笑)。その後、聞こえる聞こえない、手話ができるできないに関係なく、お客さんと時間を楽しむ太田さんはすごい、ぜひ映画にしてくださいと観てもらいたいと思ったんです。太田さんが聞こえないと知らずにお店にきたお客さんも、太田さんが笑顔と珈琲とエンピツ(筆談)で楽しく話しかけるうちに、だんだん心がほぐれていく。私はそれまで手話を知らない人が筆談を面倒と感じるんじゃないかと、自分から壁を作っていました。でも太田さんとお客さんのやり取りを見るうちに、私も自由にのびのびと話したい、いちばん大事なのは伝えたい、話したいっていう気持ちなんだと思うようになったんです。最初は自分がナレーションをしていいのかが悩みましたが、プロデューサーの勧めもあって、自分の気持ちの変化を、自分の言葉で伝えようと決めました。結果的にたくさんの方に「私の声でよかった」と

言っていたら、勇気を出してよかったと思っています。

映画を作りたいと思ったのは、中学生の時、父が私のためにレンタルビデオで、字幕付きの洋画を借りてくれたことがきっかけです。初めて借りてきたのは『E.T.』(82)でした。字幕があるので家族と一緒に楽



プロフィール/いまむら・あやこ 1979年生まれ、愛知県名古屋出身。愛知県立豊橋聖学校高等部卒業。愛知教育大学教育学部卒業。カリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学し、映画学科・アメリカ手話・アメリカろう文化を学ぶ。12年間ろう者の映像作家として、ろう者・難聴者を題材としたドキュメンタリー映画を製作。現在、名古屋学院大学・愛知学院大学で非常勤講師としても勤務。東日本大震災の後、被災地のろう者の現状取材し、ドキュメンタリー映画『架け橋』を製作。全国各地で講演・上映活動を展開中。

中学時代に映画から勇気や元気をもらい、自分も作りたいたいという夢が生まれました



Special Interview 今村 彩子さん(監督)

しましたし、言葉も文化も違う宇宙人と男の子が次第に心を通わせる物語にも胸を打たれて、『E.T.』は今でも大好きな映画です。それから父の好みで『ダイ・ハード』(88)『ターミネーター』(84)など、ハリウッドのアクション映画をたくさん観ました。それまでは学校で友達の会話に入れず、寂しい思いをしていましたが、映画を観るようになってから、明日も頑張るって行こうって勇気や元気をもらえて。いつか自分も周りの人に、元気や勇気を与えられる映画を作りたいという夢を持つようになったんです。

映画の主人公となった太田さんと同じく、笑顔がとてもステキな今村彩子監督。とにかくドキュメンタリーが大好きで、「日本と中国の架け橋となったドキュメンタリー映画『小さな留学生』(張麗玲監督)のように、私もろう者と聞こえる人たちの架け橋になれる作品を生み出していきたいです」と力強く語ってくださいました。

今村彩子監督作品『珈琲とエンピツ』伏見ミリオン座にて6月30日(土)より公開